

## 令和7年度 年度当初にあたって

1. 年度末に新しいスタッフを迎えました。通常は一日の採用時研修で午前が座学、午後が事業所見学という形でした。今回は直前に開催された管理者会議において、座学の前に事業所体験（単なる見学ではなく）を実施したらどうかと提案があり、初めて実施してみました。結果としては大変良かったのではないかと思います。所属する事業所以外のことがわからないよりも、たとえ期間は短くても立ち位置がよくわかるのではないかと思います。事業所それぞれに特色があり、今後の協力体制を作るうえで大変有益であったと思います。

スタッフの皆さんからも、「自分の事業所のことしかわからないので、私たちも他の事業所の体験をしてみたい」という声があがっています。具体的には人事交流という形にチャレンジしたいと思います。積極的なみなさんからの提案をぜひお願いしたいと思います。

2. 広報誌委員会が昨年度末にスタートしました。社会福祉法人が発行する広報誌は3つの視点（目的）が大切です。一点目は関係者や地域の方々になごみかぜの事業活動を知らせ理解していただくことです。二点目は読み手にとって有益な情報を発信するということです。有益な情報とともにいかに興味や関心をもっていただけるかが大切です。三点目はなごみかぜのファンを獲得するということです。事業活動を広報し、有益な情報を発信することによって、ボランティアの申し出があったり、パンマルシェや風里市により多くの方に来ていただいたり、求人に対する応募があったりということを期待します。委員を担っていただいたスタッフの皆さんに期待しています。

3. 虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会）・感染症対策委員会が義務化とともに取り組みが開始されています。日々の業務の中で大変だとは思いますが、より良い支援の実施に向けては大変重要な活動となります。特に虐待防止については、虐待の芽は不適切な支援であることをしっかりと押さえながら、ケースワークや事例検討会を充実させていきたいと思っています。

風の駅壺番館については、地域に開かれた（地域の目が入る）支援を行うために、地域の方に参加していただく「地域連携推進会議」がスタートする予定です。

4. 仕事は自らが考え（創意工夫）実行していくととても面白いものになると思います。積極的にアイデアをたくさん出していただけることを期待します。

（文責：大場保治）